

第2回 FA・SIer 協会設立準備 WG1

【日時】2018年2月15日(木) 15:00~16:30

【場所】機械振興会館 6階 6D-1、6D-2

【参加者】戸荏(戸荏工業)、栗原(デザインネットワーク)、金谷(テクノス)、幸物(関東経済産業局)、松井(ティーネットジャパン)、名倉(日本設計工業)、伊藤(近藤製作所)、高木(日本商工会議所)、五十嵐(コスモ技研)、山本(イシダ)、下間(バイナス)、船戸(ウエノテクニカ)、高橋(豊電子)、谷口(東レエンジニアリング)、上田(IDECファクトリーソリューションズ)、多田(SMFLレンタル)、渡邊(SMFLレンタル)、中田(中部経済産業局)、高山(松栄テクノサービス)、国枝(ヒロテック)、久保(エイジェック)、高丸(高丸工業)、柳原(ヤナギハラトカックス)、栗屋(ハンドトラスト)、服部(ハンドトラスト)、佐々木(さばみはら産業創造センター)、松井(キョーエイ機工)、蔦川(損保ジャパン日本興亜)、大槻(筑波エンジニアリング)、星(ヤマハ発電機)、田口(田口鉄工所)、小泉(山善)、茅原(富士ソフト)、本橋(ジェイティエンジニアリング)、奥山(HCI)、横山(VRテクノセンター)、橋本(三菱UFJリース)、櫻井(永昇電子)、振本(大豊産業)、五十嵐(東京海上日動)、竹松(東京海上日動)

事務局：小平、高本、須田(JARA)、中川(NTTD経営研究所)

(敬称略、順不同)

1. 現在の進捗報告

- 幹事会を2回実施しており、大まかな方向性を検討した。SIer協会は、初年度はJARA内に独立した口座を持つ任意団体として設立する。

2. SIer協会設立に当たり

1) 国際情報について

- 国際情報提供について、松栄テクノの高山様にご担当いただく。
 - 海外ロボットメーカーが日本に参入してきている。海外のSIer企業やセンサ企業も増えている。まだまだ情報が少なく、危ない情報も多いので皆さんに情報共有できるよう進めたい。海外では日本つぶしがすぐに広がりやすい。日本ではSIer企業も新聞と同じタイミングでしが情報の入手方法が無い。より早い段階で情報を知るべき。海外地域の情報を日本から海外への情報展開の中で知りえるしかない。
- 海外のSIer協会と日本の事務局が連携することで定期的に情報収集することは可能かと思うので検討いただけると良い。
- 安全に対する意識が海外と日本で異なる。日本でもロボットを多様に使ってきたが、新しい使い方海外メーカーと差がでないようにしたい。

- 海外の新しいロボットを使いたい企業も出てきており、SIerとしてはロボットメーカーとのやり取りやロボットについて様々知ることから始める必要がある。海外メーカーが日本に参入するのであれば、まずは JARA に情報提供するなどを通して情報を入れて欲しい。SIer 企業に対して宣伝したいのであれば広告代金をいただいて SIer 協会に向けて宣伝することもありえる。
- 日本のエンジニアを赴任させる際の現地での情報が欲しい。
- 単独で情報を取りに行くかではなく、どういうチャンネルを作っていくかである。協会内に国際部会を最初に立てて、そちらで考えるべき。
- 現在国際情報に関しては急お買い設立時から進める検討事項として「保留」となっているが、ランクアップして当初から始めることとする。
- 既に中国から国内の展示会に日本の SIer を集団で招いて一緒に営業しないか、という話が事務局に来ている。日本の SIer と手を組みたい話が多方面から来ている。それらをチャンスとして活かすべき。海外の仕事が増えた際にどう利益とするのか、また、どう身を守るのか検討が必要となる。
- 当社は海外拠点に既に有り国際展示会にも出展しているが、様々な業界全てに手を出すことはできないので、団体として情報提供、発信もできるとよい。情報を得るという意味では、国際部会であれば情報提供させていただきたい。北米でも多数のインテグレーターがおり、中には数百億円規模の SIer がいる。その中で需要過多の国内を見過ごすわけが無く、日本へ進出してくる可能性がある。
- 現地のビジネスは現地のルール、商談マナーがあるので、いきなり単独で乗り出せない。中国は、単なる商談仲介ではなくリスクヘッジを彼らもやりたいと考えている。そこをうまく利用していくべき。

2) 銀行ネットワークについて

- メガバンクの子会社でロボットレンタルをしている。顧客からはインテグレートや自動化もして欲しいという話があるので、インテグレートとロボットを合わせて提案している。現在銀行は人材が多いので、ロボット、SIer に関する情報を取って欲しいと言えば情報をかなり取ってくる。きちんと準備して体制を整えてからでなければ銀行とのネットワークは難しい。顧客は金融機関からの情報提供を求めている。
- 金融機関に SIer の知識を教えるのは大変だが、銀行は広い分野でやっておりロボット担当者もいる。積極的な動きもするので、その流れを作るとうまく役割を果たせる。銀行としては現在どうしていいかわからない分野であるため、業界団体ができると良い。
- 地方銀行は地域振興策を進めたいという話が多いので、情報チャンネルとしていい。
- 顧客の本気度を測るためには、設備の話をする際におおまかな費用について話すことで把握できる。銀行は工業会に参加して予審をするので情報後とても多い。自動的に営業を行ってくれる相手となる。

- 銀行から事務局に既に問い合わせがきており、2つパターンがある：
 - ①顧客が自動化を検討しているので情報が欲しい
 - ②自分達がコンサルティングを行いたい
- 銀行とのネットワークシステムは後から行えば良いが、ビジネスマッチングとして必要。
- 地域が先導してモデルケース的に行い、他地域が模倣することで体制が整うようにすれば良い。地域の連携がきちんとできればその下の繋がりはゆるくても良い。
 - 設立当初は全国と各支部とする。
 - モデルケースを設置し、実証すると良い。
 - 既存の地域の SIer 組織とどう関わっていくか。

3. 会員について

- SIer 協会の会員は3つ想定：
 - ①SI 会員で SIer を生業としている会員
 - ②協賛会員（銀行、保険業者、ロボットメーカー等）
 - ③学術協賛会員
- SIer 会員は一律会費を検討中。資本金の少ない企業は半額にするなど今後議論はあるが、基本一律とする。協賛会員は口数制（一口 10 万円など）を想定。大きな口数に対してはより大きなメリットが与えられる。学術協賛は無料となる想定。
- 協会運営に年間一千万円程度かかると想定している。
- 当社はシステムを開発はできないが、代理で前捌きと営業をすることができる。前捌きができるような企業が正会員の中にも良いのではないか。
- ビジネスマッチングシステムについて、前捌きについて SIer に流してもお金になるかわからないので蹴ってしまう。有料でもやりたいという人がいればやってもいいのではないか。
- 協業システムを作った際に、ヘルプして欲しいという掲示板の書き込みに対する需要はあるが、それをやってもいいという SIer は少なく、実際に機能しないのではないか。ヘルプをした企業が来年度の会費が安くなるなど、メリットがないと難しいのではないか。実際に協業システムを作っても時間がなくてヘルプできない。
- 団体を作るうえでは、まずは課題を整理・共通認識することが重要であり、いきなり問題解決は無理。そういった課題を集めて整理することが団体の第一歩。
- 会員以外の北海道や遠方地域の SIer の情報も集められるような仕組みがあると良い（経産局など利用）。

4. SIer 協業システムに関して

1) 協業システム

- SIer の会員内だけで見られるものを作りたいが、自己申告ベースで各社どこまでできるのか。
- ML でこういう項目が欲しいという内容を挙げて事務局に連絡戴きたい。
- 各社の情報を見られるマトリックス、案件情報、マッチング要望を解決できるシステムを協会設立を、事務局として初期段階から作りたい。(フロー図参照) 単純なサイトから検討している。

2) HP

- 事務局で、SIer 協会の HP の作成を検討している。特徴的な点は、広告バナーを設け協賛会員の中から口数が多い企業の広告を出す点。口数が多い協賛企業は、SIer 協会メンバーに対して多くメールを投げられる、等を検討している。
- 相模原市では地域 SIer のマッチングを行っている。協業システムは SIer 会員でない賛助会員 (第 3 セクターなど) は利用できるのか。
 - 現段階では利用できない方向性で考えている。企業の詳細が閲覧できるので、会員だけとしたい。ただしヘルプに関する情報は協会から流したいと思う。
 - 広島でも相模原の仕組みをそのまま活用している。UBER のように、一番近いところでこういう顧客がいる、などの情報と顧客からの評価がつくようなデータベースがあると貴重な情報が蓄積されて解析されていく。
 - 会員だけに閉じずとも、ヘルプは他でも閲覧できる方がよいかもしれない。

5. その他意見交換

- 今後のロボット利活用には利活用の幅が重要。ロボットの新規用途に関する情報交換がこの場でできると良い。
 - ユーザー企業の秘密保持契約なので難しい。
 - 応用技術専門部会を設立するのが良い。項目に追加する。
- 農林水産省で食品産業生産性向上フォーラムを 3 月 5 日に開催する。事務局を JARA が行い、ここでマッチングを実施する。プレゼンしたい方は事務局までご連絡いただきたい。

以上